

受験番号	
------	--

令和 6 年度

摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程(B 課程)

受講試験問題

専門科目 II

実施日 : 令和 5 年 12 月 5 日 (火)

実施時間 : 10:35~11:25(50分間)

<注意事項>

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
2. この冊子の本文は、8 ページ 20 題です。
3. 印刷不鮮明な箇所および脱落などがあれば、ただちに申し出てください。
4. 解答用紙は 1 枚です。解答はすべて解答用紙の指定された解答欄に記入してください。
5. 問題用紙と解答用紙の受験番号欄に受験番号を記入してください。
6. 試験中は、退室することはできません。
7. 問題用紙は試験終了後に回収しますので、持ち帰らないでください。

問題 1 次の文を読み問 1～3 に答えてください。

A さん 70 歳男性、自営業。60 歳のとき健康診断で肝機能異常が認められ、精密検査の結果 C 型肝炎、肝硬変と診断された。インターフェロン治療後は肝庇護薬による内服治療を行っていたが、仕事が忙しくなり半年前から医療機関への受診を中断していた。1 か月前より体重増加と下肢浮腫がみられたため、外食の回数を減らしたり、弾性ストッキングを着用したりして様子を見ていた。しかし、体重は 1 か月で 5kg 程度増加し、腹部膨満感、倦怠感、呼吸困難感が増強したため医療機関を受診した。検査の結果、肝機能低下、腹水貯留が認められ入院となった。

身体所見:体温 36.0℃、呼吸数 20 回/分、脈拍 98 回/分、血圧 120/74mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度 96% 検査所見:アルブミン 2.5g/dL、総蛋白 6.0g/dL、総ビリルビン 3.1mg/dL、AST 230 IU/L、ALT 120 IU/L、 γ -GTP 330IU/L、アンモニア 75 μ g/dL、血小板 13 万 / μ L、PT 活性 70%、空腹時血糖 190mg/dL

【問1】入院時の A さんに出現している可能性が高い症状はどれか。

1. 黄疸
2. 深昏睡
3. タール便
4. 胆のう炎

【問2】入院時よりアルブミン製剤と利尿薬の投与が開始となった。A さんは「寝ていてもお腹が張って苦しい。便も出ないし食欲もない。尿の回数が増えて喉が乾く」と訴えている。適切な対応はどれか。

1. ベッド上では仰臥位で寝返りは極力避けるように促す。
2. 積極的にリハビリを促す。
3. 水分を多く摂取するよう促す。
4. 体重・腹囲測定を行う。

【問3】治療により A さんの腹水は軽減したため退院が決まった。A さんへの食事指導で適切なのはどれか。

1. 塩分を 1 日 5g～7g に制限する。
2. 高蛋白食を摂取する。
3. カリウムの制限をする。
4. 食物繊維を控える。

問題 2 次の文を読み問 4～6 に答えてください。

A さん 60 歳女性。職場以外での定期的な健康診断はしていなかった。55 歳のときに肺気腫を指摘されるまで 1 日 20～30 本程度たばこを吸っていたが、それ以降、現在まで禁煙している。A さんは 1 か月前から咳嗽と喀痰が持続しており、最近では咳嗽と喀痰に加え全身倦怠感や食欲低下などの症状もみられるようになり、近所の病院を受診した。その結果、胸部エックス線写真で左肺上葉に異常陰影を認め、精密検査の結果、左上葉に肺がんが見つかり胸腔鏡下肺切除術+リンパ節郭清術が予定された。

【問 4】 A さんは手術前に呼吸機能検査を受け、結果は%肺活量 85%、1 秒率 60%だった。

A さんの呼吸機能の状態として考えられるのはどれか。

1. 正常
2. 拘束性換気障害
3. 閉塞性換気障害
4. 混合性換気障害

【問 5】 手術前の看護師のかかわりで適切なのはどれか。

1. 口腔内の清潔を保持する。
2. 胸式呼吸を促す。
3. 浅く速い呼吸ができるよう呼吸練習を行う。
4. 運動。

【問 6】 A さんの手術は無事に終了し、帰室。帰室後、A さんの胸腔ドレーン刺入部周囲の皮膚に皮下気腫が触知された。胸腔ドレーンの排液は血性であり、出血量は約 40mL/時である。胸腔ドレーンは-15cmH₂O で低圧持続吸引中であり、水封室は呼吸性変動とともに呼気時に少量の気泡が生じている。A さんへの対応で最も適切なのはどれか。

1. 吸引圧を下げる。
2. ドレーンをミルクングし、排液の凝塊を取り除く。
3. 水平仰臥位にする。
4. 皮下気腫の部分マーキングし、拡大がないか観察する。

問題 3 次の文を読み問 7～9 に教えてください。

Aさん 45歳男性は独身の会社員である。仕事はデスクワークが中心で、1年ほど前から在宅勤務が多くなり、外出する機会も減った。自炊はせずにスーパーの惣菜中心の食事であり、朝食はあまり食べない。仕事後の飲酒が一番の楽しみで毎日缶ビール 350ml を 2 本飲む。喫煙歴はない。年 1 回 職場で健康診断を受けていた。3 年前から BMI、腹囲、血圧、LDL コレステロールの値を指摘されていたがそのまま放置していた。今年の健康診断で洞性不整脈、軽度 ST-T 異常疑い、軽度左軸偏位を指摘され、近医を受診した。

外来受診時の身体所見は、BMI 32.9、血圧 160/98mmHg、脈拍 74 回/分(不整脈あり)。

血液検査の結果は、BNP 12pg/mL、ANP 22pg/dL、LDL コレステロール 154mg/dL、HDL コレステロール 47mg/dL、AST 32IU/L、ALT 50IU/L、 γ -GTP 84IU/L、空腹時血糖 92mg/dL、HbA1c 5.8%、血清クレアチニン 0.63mg/dL、推算糸球体濾過量(eGFR) 107.9mL/分/1.73m²であった。

尿検査で尿蛋白 (+) がみられた。心エコーは異常なく、自覚症状の訴えもなかった。

【問 7】 Aさんが職場で受けていた健康診断の種類はどれか。

1. 特殊健康診断
2. じん肺健康診断
3. 定期健康診断
4. がん検診

【問 8】 Aさんの外来受診時の検査データのアセスメントで正しいのはどれか。

1. 原発腫瘍なし狭心症が考えられる。
2. 慢性腎臓病(CKD) が考えられる。
3. 1度高血圧症が考えられる。
4. 糖尿病が考えられる。

【問 9】 診察後、A さんから「6 か月後も検査データが改善しないときは、薬物による治療も考えていきましょうと医師に言われました。食生活にも気をつけるよう言われました。何に気をつけたらよいのでしょうか?」と、看護師に相談があった。看護師の対応で適切なのはどれか。

1. 「今日からお惣菜はやめて、自炊をしましょう」
2. 「塩分摂取は 1 日 10g 以下にしましょう」
3. 「お惣菜を選ぶときは揚げ物を控えて、野菜を多く取り入れましょう」
4. 「朝食を抜いたときは、昼食と夕食は多めにしっかり食べましょう」

問題4 次の文を読み問 10～12 に答えてください。

Aさん 90歳女性、夫と2人暮らし。70歳のときに受けた健康診断で骨粗鬆症を指摘された。その後受診し、活性型ビタミンD製剤の内服を開始するが、飲み忘れることが多かった。犬の散歩を日課としているが、ふだん通っている道がわからなくなったり、予定通りの行動ができなくなってしまうことがある。身の回りのことはほとんど自分でできるが、料理や買い物などは夫が行っている。自宅で椅子から立ち上がろうとした際に転倒し、痛みのため自分で起き上がることができず、救急搬送された。右下肢のエックス線およびMRI検査の結果、右大腿骨頸部骨折（Garden分類 Stage IV）と診断され即日入院となり、2日目に右人工骨頭置換術（後方アプローチ）の手術を受けた。術後経過は順調である。

【問 10】 術後 7 日目。ベッド上からの車椅子移乗は、痛みやふらつきがあるため自力では不安定な状態である。Aさんへの援助で適切なのはどれか。

1. ベッドの高さを一番低い位置にする。
2. 内転・内旋位を保ちながら患肢をベッドサイドに下ろす。
3. 患側を軸にしながらか移乗介助を行う。
4. 疼痛が強いときは指示された鎮痛薬を与薬し、移乗動作を進める。

【問 11】 術後 13 日目。術後の経過は順調で、病棟内で歩行器を使った歩行訓練が開始されている。ときどき、現状が理解できず混乱がみられる。Aさんへの対応で最も適切なのはどれか。

1. Aさんの間違いに対してその都度注意した。
2. 「リハビリに行くので着替えて、靴を履いて車椅子に乗りましょう」と声かけをした。
3. 「トイレに行くときにはナースコールを押してください」とAさんが見える位置にメモを貼った。
4. 繰り返し何度も説明すると混乱を招くので、説明は夫にした。

【問 12】 術後 21 日目で自宅に退院することになった。夫に退院指導を行った。適切なのはどれか。

1. 「Aさんの犬の散歩はやめたほうがよいでしょう」
2. 「数分でも日光浴は疲れるので避けてください」
3. 「シャワーチェアは足底が洗い場の床につく程度で、高さのあるものを選びましょう」
4. 「骨粗鬆症のお薬は飲まないでください」

問題 5 次の文を読み問 13～15 に答えてください。

A さん 75 歳男性。妻と 2 人暮らし。会社役員として働いている。休日は友人と釣りをすることが楽しみであり、体力には自信があった。1 年前から、夜間の尿回数が増え、尿の勢いが弱くなっていたが「歳のせいだろう」と思い、病院受診はしていなかった。

ここ数か月、外出中に尿がしたいと思うとがまんできず尿が漏れることが増え、外出を控えるようになった。数日前から尿量が少なくなったため、病院を受診し、精査目的で入院している。入院時の血液検査は、クレアチニン 0.6mg/dL、K3.8mEq/L、推算糸球体濾過量(eGFR) 70mL/分/1.73m²である。

【問 13】 A さんは、前立腺肥大症と診断された。診断のために行われた検査はどれか。

1. 下部消化管エックス線検査
2. 直腸診
3. 腎生検
4. 膀胱鏡

【問 14】 A さんは、翌日に経尿道的前立腺切除術を行うことになった。医師の手術説明のあと、看護師が不明点の確認をし、説明を行った。適切なのはどれか。

1. 「電気メスで腫れたところを切除します」
2. 「術後 2 日ほどは、ベッド上安静です」
3. 「術後、血尿が出たら処置が必要になります」
4. 「前立腺内部にステントという筒を留置し、尿道の圧迫を解除します」

【問 15】 A さんの術後の経過は順調で、術後 7 日目で退院することになった。A さんへの退院指導で適切なのはどれか。

1. 「術後 2 週間は重い物を持たないようにしてください」
2. 「尿漏れ防止のためにおむつを着用して外出するとよいでしょう」
3. 「水分はあまりとらないようにしましょう」
4. 「退院後は釣りに出かけても大丈夫です」

問題 6 次の文を読み問 16～18 に答えてください。

A さん 80 歳男性は、70 歳代の妻（高血圧症治療中）と 2 人暮らしである。娘夫婦は隣町に住んでおり、週末に介護を手伝っている。A さんは 60 歳代より高血圧症で内服治療を受けていた。2 年前に血管性認知症と診断され、かかりつけ医より血圧管理と日常生活の管理目的で訪問看護指示書が出されている。現在は要介護 2 で、デイケアを週 1 回、訪問看護を週 1 回利用している。

A さんは、日中でもトイレに間に合わず下着を汚すことや、ときどきトイレではない場所に排尿・便をすることがあり、排泄物に触れる行動がみられることもある。夜間は 8 回ほどトイレに起き、その度に妻はトイレ介助を行うため睡眠不足が続いている。現在は、アムロジピンベシル酸塩 5mg 1 日 1 錠、ドネペジル塩酸塩 5mg 1 日 1 錠を妻の介助で内服し、血圧は 130～140/70～80mmHg で安定している。また、認知症の症状も大きな変化はない。しかし、妻は夜間の睡眠不足から、夫に飲ませる薬を忘れることがある。

【問 16】 A さんの健康管理のために訪問看護師が妻に行う助言で適切なのはどれか。

1. 「A さんのペースでトイレ介助を続けましょう」
2. 「トイレ介助が大変なので、A さんには水分を控えてもらいましょう」
3. 「A さんにはおむつを着用しましょう」
4. 「内服薬を忘れずに介助できる方法をいっしょに考えましょう」

【問 17】 娘より、「何度もトイレに行くのですが、間に合わなかったり、何も出なかったり、便に触ったりして大変です。どうやって介護をしたらいいかわかりません」との質問があった。訪問看護師の助言で適切なのはどれか。

1. 「A さんに、便に触れることは汚いことであることを説明しましょう」
2. 「尿意や便意がなくても、時間を決めて頻回にトイレに誘導してみましょう」
3. 「排泄日誌をつけ排泄パターンやサインを把握して、早めのトイレ誘導を行いましょう」
4. 「夜間はミトンを装着しましょう」

【問 18】 妻より、「トイレの世話が疲れます。夜中も何回も起こされて頭にきます。もう疲れました」との発言がみられた。訪問看護師の対応として最も適切なのはどれか。

1. 「ご主人はあなたのお世話を喜んでおられるのでがんばりましょう」と励ます。
2. レスパイトケアを提案する。
3. 娘に、夜間は泊まりに来よう助言する。
4. 日中は A さんを一人にして、妻は娘の家でゆっくり休むよう提案する。

【問題 7】 次の文を読み問 19～20 に答えてください。

5 年前、A 県沖を震源とするマグニチュード 6.5 の地震が起こり、震源に最も近い B 市は大きな被害に見舞われた。B 市にある C 病院では、震災の経験をもとに、災害発生時に迅速な初動体制が整えられることを目標に防災準備に取り組んでいる。

【問 19】 C 病院が災害発生時の初動体制に向けて整えるもので優先度が高いのはどれか。

1. 今年度の避難誘導経路の確保
2. アクションカードの作成
3. 災害ボランティアへの連絡網の整備
4. 災害派遣医療チーム (DMAT) 運用計画の策定

【問 20】 B 市では多くの人が避難所に避難した。地震発生から 2 週間後、余震回数が減り、避難所では混乱がなく過ごせるようになってきた。梅雨明けから最高気温が 25℃以上の夏日が続くなか、冷房設備が十分でない E 避難所に C 病院から看護師が派遣された。看護師の役割で最も適切なのはどれか。

1. 乳幼児の泣き声が睡眠の妨げとなるので、母親によくあやすよう説明する。
2. 嘔吐、腹痛、下痢など食中毒の急性症状について周知する。
3. 時間をかけて高齢者を中心に話を聞き、健康状態を把握する。
4. 熱中症予防のため、なるべく安静に過ごすよう説明する。